

自己評価結果(平成30年度)

川辺町第2こども園

評価項目	評価内訳(割合)		
	できている	少しできている	できていない
1. 総則	78.0%	7.1%	14.9%
(1)教育及び保育の基本と目標	71.2%	13.5%	15.4%
(2)特に配慮すべき事項	79.6%	5.6%	14.8%
2. 子どもの発達	83.9%	3.6%	12.5%
3. 「ねらい」及び「内容」	82.7%	2.0%	15.2%
(1)「健康」	93.2%	0.0%	6.8%
(2)「人間関係」	93.2%	2.3%	4.5%
(3)「環境」	72.7%	6.8%	20.5%
(4)「言葉」	86.4%	0.0%	13.6%
(5)「表現」	68.2%	1.1%	30.7%
4. 低年齢児の保育実施上の配慮事項	76.8%	11.2%	12.0%
(1)乳児期の保育に関する配慮事項	71.4%	18.2%	10.4%
(2)満1歳以上～満3歳未満児の保育に関する配慮事項	85.4%	0.0%	14.6%
5. 指導計画作成にあたっての配慮すべき事項	82.5%	2.5%	15.0%
6. 研修と自己評価	60.0%	13.3%	26.7%
7. 子育て支援	75.0%	4.4%	20.6%
合計	79.3%	5.1%	15.6%

達成状況	できていること	できるとよかったこと
1. 総則	・こどもの気持ちが安定し、自己発揮する体験ができるよう配慮している。 ・乳幼児期の教育・保育は、人格形成の基礎を培う重要な時期であることは十分理解できている。 ・こどもたちの健康状態の把握に努め、こどもたちが食事やおやつを楽しめるよう努めている。	・園が取り組んでいる日常の教育・保育が法令や要領等に関連づけて行われていることを上手く説明する力が不足している。 ・こども中心の教育・保育を行うよう心がけているが、時間に追われるなど気持ちに余裕がないときなどは、園や保育教諭の都合を優先してしまうことがある。
2. 子どもの発達	・こどもの発達の特性などを理解し、各年齢に応じた支援や援助に努めている。 ・こどもが主体性を持って関わろうとする姿を認め、適切な援助等ができている。	・こども一人ひとりの個人差があることを理解したうえで、その子に適した関わり方を意識しているが、集団として活動を進める場合、対応できにくいときがある。

3. 「ねらい」及び「内容」	・この地域の特性(自然豊かな)を活かした環境設定をすることで、こどもが明るく伸び伸びと遊ぶことができる。 ・こどもの様々な機能が促されるよう、全身を使った遊びを多く取り入れることができる。	・保育教諭の特性(得意な取り組み、不得意な取り組み)が普段の教育・保育に影響してしまうことがある。
4. 低年齢児の保育実施上の配慮事項	・基本的な生活習慣を理解したうえで、こども一人ひとりの発達過程にあわせ、援助することができる。 ・子育てに関する保護者の気持ちに配慮した対応や支援をすることができる。	・こどもの健康状態は常に気をつけ、体調の変化には適切に対応することができるが、感染症との関連づけが十分でないことがある。
5. 指導計画作成にあたっての配慮すべき事項	・日々のこどもの様子に基づいた指導計画を作成することができる。 ・日々の保育記録を通して、一人ひとりの発達状況を把握し、必要に応じて個別の支援計画を作成することができる。	・こどもの発達の姿や季節の変化、地域社会との関連性などに考慮して作成しているが、毎年類似する内容になることが多い。
6. 研修と自己評価	・こどもの育ちや自分の保育を振り返りながら園内で情報共有することで知識を深めたり、負担の軽減などができる。	・研修に参加したり、保育専門書を読むなど、資質向上の意欲はあるが、優先すべきことや時間的制約などにより十分できていないと感じる。
7. 子育て支援	・保護者から子育ての悩みや心配事などを相談しやすいような環境づくりに努めているほか、個人面談等を定期的に開催している。 ・未就園児の家庭を対象に園庭を開放し情報提供や相談に応じることができる。	・教育、保育の意図をわかりやすく保護者に伝えるよう努めているが、全ての保護者の理解を得ることができないことがある。

＜来年度取り組むべき課題及び提案＞

- ・専門性を深めるため、園内研修を継続し、積極的に園外研修に参加する機会を設けていく。
- ・こどもの興味や関心を大切にしながら、友だちと一緒に活動する(遊ぶ)楽しさや喜びが感じられるなど、こども一人ひとりにとって心身ともに健やかに育つためにふさわしい生活の場となるよう努めていく。
- ・乳幼児期の発育や発達、人格形成の基礎が培われる重要な時期であることを再認識し、保護者とともに乳幼児期の大切さを共有、共感していく。